

第1回キャンパスおだわら運営委員会 会議概要

日 時	平成26年4月22日(火)午後2時から4時まで		
場 所	小田原市役所 議会全員協議会室		
委員長	齊藤 ゆか	出席	学識経験者
副委員長	瀬戸 充	出席	生涯学習の向上に資する活動を行う者
委員	金澤 久美子	出席	学識経験者
	左京 泰明	出席	
	有賀 かおる	出席	生涯学習の向上に資する活動を行う者
	安藤 恵	欠席	
	岩屋 泰彦	出席	
	与那嶺 信重	欠席	
	石井 悦子	出席	公募市民
	永田 圭志	出席	
	立花 ますみ	出席	教育委員会が必要と認める者
事務局	栢沼教育長 (文化部) 諸星部長、安藤副部長 (生涯学習課) 友部課長、大木担当副課長、村田係長、佐久間主任		
キャンパスおだわら事務局	奥村理事長、和田副理事長		
キャンパスおだわら人材バンク実行委員会	早野委員長、太田副委員長		
傍聴者	1人		

※委員は選出区分別五十音順(委員長・副委員長除く)

1. 委嘱状交付

- ・小田原高等学校からの推薦により委員に就任されていた宮地委員が、4月1日の異動により委員を退任された。新たに同校から推薦された立花ますみ委員に、委嘱状を交付した。

2. 委員紹介及び職員等紹介

(各委員及び事務局職員等の紹介)

3. 議題

安藤副部長 三輪委員長が、3月25日付けで委員を退任されたので、キャンパスおだわら運営委員会規則により、委員長が選出されるまでの間、議長は瀬戸副委員長にお願いする。なお、安藤委員と与那嶺委員が欠席されているが、委員の2分の1以上の出席があるので、キャンパスおだわら運営委員会規則第5条の規定により、本会は成立する。また、議事に入る前に資料の確認と訂正をお願いしたい。事前に配布させていただいたキャンパスおだわら運営委員会の次第だが、議題の下に「5. その他」とあるが、「4. その他」に訂正いただきたい。それではここからは瀬戸副委員長にお願いする。

(1) 委員長の選出について

副委員長 それでは議事に入る。議題(1)について事務局から説明をお願いする。

友部課長 それでは、議題(1)委員長の選出について説明する。本運営委員会の委員長を務めていた、三輪建二様におかれては、昨年度、体調不良で欠席されていたが、このたび、大変残念ではあるが、平成26年3月25日付で退任された。ついては、キャンパスおだわら運営委員会規則第4条により、新たに運営委員の中から互選により委員長をご選出いただきたいと思う。説明は以上である。

副委員長 ただいまの説明で何かご意見はあるか。

岩屋委員 委員長選出については議長一任でよろしいかと思うがいかがか。

副委員長 議長一任という声があるがよろしいか。

(同意の声あり)

副委員長 このような会の場合、委員長が抜けられると副委員長がそのまま委員長になるということが多いようだが、私はこのまま副委員長にとどまらせていただき、新しい委員長を、私からお願いしたいと思う。ついては、前回の運営委員会のあとで行った意見交換会で中心になっていただいた齊藤委員が、私か

ら見て最適ではないかと思う。齊藤委員に委員長を受けていただきたいとお願いする。

齊藤委員 承知した。よろしく願います。

副委員長 ご本人に承諾をいただいたので、皆さんのご承認をよろしく願いたい。

(同意の拍手)

副委員長 それでは、齊藤委員を委員長に選任する。

安藤副部長 それではここで、委員長に就任いただいた齊藤委員に挨拶をお願いします。

(齊藤委員長あいさつ)

安藤副部長 あとの進行については齊藤委員長に願います。

(2) 開設講座について

キャンパスおだわら事務局(以下「C事務局」) 資料1に基づいて説明させていただく。

こちらは前回の25年度第5回運営委員会に提出したあとの資料になる。5月からの講座になる。講座数は64講座。区分のところに【子】と【お】の表示があるが、【お】は小田原に関する講座、【子】は子どもたちを対象とする講座である。ジャンルのところを見ると、スポーツ・アウトドアのジャンルが14講座、福祉活動・社会活動が18講座、その他が20講座あり、これらがメインのジャンルになる。それから定員の部分で、数字の後ろに()で示された部分があるが、この講座は連続で回数を重ねる講座なので、()の中は延べ人数と解釈していただければと思う。そのため、延べの講座数は64以上になる。これらの講座はキャンパスおだわら事務局で仮認定したもので、もう一度この場で委員の皆さんに確認していただきたい。認定にあたっては、キャンパスおだわらの事務局で仮認定をしたのだが、広く市民に開かれた講座、営利を目的としない講座、特定の政党、宗教を対象としていないなどの認定基準に照らし合わせ、あきらかに基準を満たしていない講座については不受理として、それ以外は原則受け入れている。説明は以上である。

委員長 こちらのキャンパスおだわら開催予定講座について、予定とは言ってもすでにスタートしている講座もあるが、内容についてなにか質問はあるか。

岩屋委員 先ほどの()書きがあるということで、複数回開催される予定の講座に関して、受講料は回数分のトータルの受講料なのか、それとも1回分の金額なのか。

- C事務局 こちらに掲載されている講座は、全講座を含めた受講料になる。
- 岩屋委員 実際は、このあと数回開催されるということで、もし、5回開催されるとして、3回しか参加できない場合はその3回分の受講料になるという理解でよろしいか。
- C事務局 今の質問に対して、受講料については正確な表示になっていない。資料1のNo.64を見ていただくと、10回講座で、1回ごとに500円いただく受講料になっている。表現上のあいまいさがある。
- 岩屋委員 1回あたりの受講料を挙げているものもあれば、トータルのものもあるということか。
- C事務局 内容が混在していて申し訳ない。全てが1回あたりというわけではなく、例えば、No.44だと6回の連続講座で2,500円となっている。
- 岩屋委員 可能であれば表現を統一してほしい。
- C事務局 近々訂正させていただいて、提出したい。
- 委員長 受講料については、トータルの金額と1回あたりの金額とで別々に記入すると受講料がすぐわかるようになる。今後整理していただければと思う。ほかにいかがか。
- 有賀委員 昨年度の資料に比べて、区分のところが、【お】と【子】で区別されてわかりやすくなった。【子】の子ども向け講座が増えていて楽しみである。先ほど受講料のことが出たが、No.21、22、23の講座の受講料が高額なのは、トータルの金額だからか。
- C事務局 そうである。中身が混在していて申し訳ない。訂正して再度提出させていただきたいと思う。
- 委員長 No.21から23までの講座は、受講料が1回あたり500円であるが、このくらいでも受講者が集まるのか。
- C事務局 私どものボランティアの講座だと、1回300～500円がベースになっている。ほかには2,000円とか3,000円という講座あるが、キャンパスおだわらの講座は300～500円が平均として多い。それでも定員一杯というわけではないが、それなりに受講者は集まっている。
- 委員長 春講座を出していただいたので、これから充足率が見えてくると思うので、この表でさらに改善していただければと思う。ほかにないか。
- 左京委員 有賀委員から、区分の変更や子ども向け講座が増えているという話が出た。

キャンパスおだわら運営委員会を1年間続けてきて、まだ結論としては出き
ったわけではないが、キャンパスおだわら事務局として新たな年度に入って、
テーマなど、これまでのキャンパスおだわら運営委員会での意見を反映した
部分があれば教えていただきたい。

C事務局 残念ながら開設講座の中で展開できている部分はない。まずは上がってきた
講座の数と、ジャンルを広くということ意識している。今まで検討してい
ただいている内容と、今日以降の議論を踏まえて反映させていきたいと思う。

委員長 ほかにないか。では、前年度から議論されてきたことが改善されてきてい
るところだが、これらの講座を認定するというところでよろしいか。

(異議なし)

(3) キャンパスおだわらのあり方について

友部課長 それでは、議題の「(3) キャンパスおだわらのあり方について」説明する。
議題の説明に入る前に、先日資料と同封でお送りした社会教育委員会議から
の答申「小田原市の社会教育・生涯学習あり方について(答申)」についてご
説明させていただく。これは、小田原市教育委員会から小田原市社会教育委
員会議に対し、平成24年8月31日に諮問し、26年3月25日に答申を
いただいたものである。

内容について簡単にご説明させていただく。まず1章として「小田原市の地
域社会と生涯学習施策の現状」を整理し、2章で「社会教育・生涯学習の目
指すもの」として、人が成長すること、まちが成長することが挙げられてい
る。3章では社会教育・生涯学習を振興するために必要な視点を挙げている。
5つの視点として「(1) 学習意欲を喚起する」「(2) 学習へのアクセスを広
げる」「(3) 郷土愛を育てる」「(4) 公共心を養う」「(5) 次世代を育成す
る」となっている。これらの視点から導き出される、これからの小田原市の
社会教育・生涯学習のあり方について4章にまとめられている。こちらは6
項目になるが、「(1) 学習情報の把握と提供」「(2) 学習の場の確保と整備」
「(3) 地域資源の活用」「(4) 現代的課題への対応」「(5) 役割分担と連携」
「(6) 学びと実践の循環」となっている。

この答申は、これからの社会教育・生涯学習のあり方について、包括的に議
論をし、まちづくり、地域コミュニティに視点をあてた形でまとめていただ
いたものである。キャンパスおだわらでは、それを具体的なものにしていく
という場面であると考えている。委員の皆様には答申の内容を参考にしてい
ただきながら、これからのキャンパスおだわらのあり方についてご検討いた

だければと思う。

それでは、資料2をご覧いただきたい。前回の運営委員会では、「目指す姿」を図るための明確な指針となる、関係する各事業の「指標」及び「目標値」を定める議論を進めていただくにあたり、さらに活発な議論をしていただくために、キャンパスおだわらの運営を担っていただいている市民団体の皆さんなども交えた意見交換会の開催を決定し、運営委員会終了後に意見交換会を開催したところである。

資料2は、意見交換会以後のキャンパスおだわらのあり方検討の流れについてまとめたものである。意見交換会では、3つのテーマについて3班に分かれて意見を出し合っていた。2月14日には、各班2人の委員に、意見を種類ごとに分類し、エクセルの表に入力する作業を行っていただいた。その後、作成いただいた表をベースに、出された意見をキャンパスおだわらの現状評価に活用できるよう、齊藤委員長のご指導のもと、語尾や表現の統一、内容の一部修正を行った。

資料2に添付した一覧表が、出された意見を評価項目と位置づけ、そこに評価基準案を追加したものである。これをもとに、次回までの間に現状調査をしたいと考えている。

資料2にお戻りいただきたい。調査を実施していただくかたについては、下に「テーマ別評価者案」として記載している。スケジュールに戻るが、本日は、一覧表をキャンパスおだわらの現状評価に活用することで良いか、評価項目、評価基準、評価対象の内容が妥当であるか議論いただきたい。本日の結果を踏まえ調査を実施し、次回の運営委員会で、調査結果に基づくキャンパスおだわらの現状評価を行い、3回目以降に、現状評価から導き出される課題の検討、そしてキャンパスおだわらの今後の方針決定と進んでいければと考えている。私からの説明は以上である。

なお、この後齊藤委員長より、クドバス手法を用いた意見交換会全体の総評、そもそもの目標と到達点等についてご説明いただきたいと思うので、よろしく願います。

委員長

それでは、2月からどのようなことをやってきたのか、2か月が経過したので、その振り返りから説明させていただく。皆さんにお配りしたパワーポイントを打ち出したプリントをご覧いただきたい。その後、皆さんに作成していただいた表をどのように活用していくかについて、提案という形で説明した上で、この表が本当に良いのかどうかということをお話したいと思う。前提として、この目的や課題、これから私がお話する内容というのは、あくまでも私が検討し作ったものであり、行政側がこういう形で作ったものではなく、十分練られた言葉ではないので、その辺りはご了承いただきたい。

まず、「キャンパスおだわら」の課題である。市民主体で運営される「キャンパスおだわら」ということで、これまでⅠ期ということで、キャンパスおだわらが市民主体で動くという形が、かたちづくられたというところまでが第Ⅰ期であった。

第Ⅱ期は、今まで作ってきたものが非常に多く、行政としても非常に流動的だったことから、いくつかの課題が残されていたということがあったので、この課題を整理していくということが、あと1年間残された私たち第Ⅱ期運営委員の任務である。それぞれ見た場合に三つの課題があると見てとれる。一つ目は、そもそもキャンパスおだわらのビジョンや生涯学習でキャンパスおだわらが担う生涯学習の範囲について、大きな構想はあるのだが、決定されたものがなく、誰のために具体的にこれを実施しているのか、何を優先してキャンパスおだわらを進めるべきなのか、期待される成果、ここまでやったら良いキャンパスおだわらになるというようなことが、少し不明瞭なところがあり、私たちが運営委員としてやるべきことや、キャンパスおだわらが目指す方向の全体像が見えていない。また、評価軸がないことで何をやっていくということが設定されていないことが一つ大きく挙げられた。

二つ目は、「キャンパスおだわら」について、今NPOに事務局を担っていたが、行政とNPOの協働で実施しているという初の試みでやっている。長期間にわたって担っていたので、私たちが要求する事項もかなり負担が大きくなる。あるいは特定のかたが負担をしなければならないなど、そういう現状が実際にあるので、キャンパスおだわらに担っていただく人の人材育成も求められている。キャンパスおだわらに担う運営者というのはどういう人材が求められているのか、そういったことを私たちが検討しなければならないということで、運営者の人材育成が挙げられた。

三つ目の課題としては、昨年度に意見として挙げられたが、すでにある講座というのは趣味や教養、あるいは子どもなど、生涯学習にどこもありがちなことだが、どうしても人気講座を中心に設定し、仕事として講座を回すことが中心になってしまい、今回答申で問われているような、例えばまちづくりを担う人材育成をするような講座の設定をしなければならないとか、社会の状況にあったような講座の設定、必ずしも人が集まるわけではないのだが、地域を支えてくれる応援団をゆっくり育成していくプログラムなどがないのではないかということが課題になる。

このような課題があったため、まず、キャンパスおだわらのビジョンを皆で一致させ、全体の方向性やキャンパスおだわらのここがおもしろいというような独自性を明確に示すこと、ということが挙げられた。また、二つ目の課題に対しては、行政と市民とで協働で行うキャンパスおだわらの運営者の人材の見える化を行い、どんな人がキャンパスおだわらの運営をこれから担っていくのか、どんな人材を育てていかなければならないかという人材モ

デルを作って、そこでまたプログラムを作っていくことができるのではないかと考えられる。必要に応じて、今、目いっぱいこれ以上できないというNPO側の事務局の負担もあるのではないかと思われるが、さらにこういったことを担ってくださるような人材育成のプログラムを作るなど、方向性を作っていかなければならないということが二つ目であった。三つ目は、キャンパスおだわらにおける講座や小田原市を応援してくれる地域資源を育むための戦略を達成していくといった方向性を作っていくことが挙げられる。

これらが大きな三つの課題であり、目的であると言える。これらのことから、まずは運営委員会を開催していても、特定の人が意見をするだけで、まったく意見がないわけではないのだが生かせないような状況はどうかと思い、皆で議論できる場が必要なのではないかということで、私も左京委員も、皆でワークショップなどをやってみないかということをやった。昨年暮れに提案させていただいた。通常の会議とは異なり、運営委員会を通じて少し時間をかけて皆さんの意見が共有できるような設定を前回、2月にさせていただいた。

その方法として私が今回コーディネーターを務めさせていただいたが、森和夫というかた、このかたは企業の人材育成の指導や戦略を練るということを中心にされているかたなのだが、クドバス手法という手法があり、この手法を活用してワークショップを開いた。ワークショップで大分類、中分類、小分類という形で皆さんに一つ一つポストイットをたった2時間で作っていただいて、2月6日からたった2か月間の間に、このようなテーマ1、テーマ2、テーマ3という形で、皆さんが考えていた、どうやったらどうかということを書き留めるという形ではなく、それぞれ全部項目として挙げて、それを並べ替えたという作業が、クドバスの見える化の作業となった。このような運営委員会と行政のかた、行政のかたといっても年齢に偏りがあるかもしれないので、なるべく若い担当者を入れていただきたいということで、生涯学習課ではないかたも何人か入っていただいて、一緒に考えていただいた。方法としては、チェックリストと項目を作ったので、あとで項目内容を見たいと思う。

独自性としては、どんなことがあったかということ、今回のワークショップは、まさに市民である私たちと行政とNPOが協働で議論したということで、協働で評価項目ができたということが一つ大きな独自性だと思う。二つ目は、このような運営委員会は年齢が高いかたが集まるといったことが通常ありがちだが、私が中年世代だとしたらもう少し20歳代とか若い世代に入っていたりなど、なるべく多世代にこのキャンパスおだわらを考えていただく機会を作るといった形の議論の場を設けた。そのクドバスの手法を使うことによって手早く、シンプルに、小集団で、しかも記録が残って、これから応用範囲について述べたいが、このような独自性が見えてきた。

テーマの設定は、先ほどからの繰り返しになるが、この三つのテーマを設定した。一つ目はキャンパスおだわらのあり方や方向性の評価軸を作ろうということで、そもそもキャンパスおだわらの仕事内容として、どのようなことをしておかなければならないのか、ということや、それが必ずしもNPOの事務局がやらなければならないということではないのだが、やっておかなければならない基本的な仕事分析といったことを、ここではあり方でもあるのだが、そういったことがでてきたのではないかと思う。

見方としては、テーマ1を見ていただきたい。ここにはローマ数字のIから一番大きく挙げられているのが左側の部分である。その隣の中分類のところを見ていただきたい。これは①から⑩まで設定されている中分類がある。そのあとにさらに細かく小分類といった形で、この小分類の一つ一つが、皆さんがワークショップで知恵を絞ってポストイットで挙げてくださった内容になる。それは2月の一度目のワークショップ作業から2月14日に非常に多くの苦勞をされて、もう少しこういうふうに並べ替えたらどうかとか、順位順にといったことで水準を付けるなど、ご苦勞されてこのように並べ替えていただいた。大変苦勞があったかと思うが、2月から3月にかけて私も、こういうふうに並び替えたらどうかとか、語尾をこういうふうにしたらどうかというような感じでやり取りをさせていただいて、語尾の統一をしてくださった。こういう形で大分類、中分類、小分類に分かれている。

Aというのが絶対に必要なもの、Bというのがあったらいい、Cというのはそれほど慌てなくてもいいというような形で、水準もそれぞれ一応分かれているので、一つのローマ数字のIの中でAからCが成り立っていて、Aであればあるほど、早くやったほうがいいのかというような水準を仮に付けているといったことになる。なので、項目が上にあればあるほど重要であるといったことが言えるのではないかと思う。そこでこの項目一つ一つを見てみると、すごく頭が痛くなってしまうので、ざっとどのような分類だったかということを押さえていきたいと思う。

まず、テーマ1についてであるが、これは大項目として八つある。8というのがここに挙げたIからVIIIまでである。この八つを一つずつ簡単に押さえておきたいと思う。Iが市民ニーズを把握すること、IIがターゲットを分別化し、仕分してということだが、ターゲットというのは目標とすることを分類して優先順位をつけていくということが大事なことで、大項目のIIIがまちづくりの人材育成ということで、まちづくりの人材のあり方を考えるということ、IVが講座についてで、①講座の内容について、②講座の開催日時や場所のあり方について、③が幅広い地域のステークホルダーとの連携、これはちょっと難しい言い方だが、行政が今まで生涯学習を担っていたが、キャンパスおだわらの場合はNPOが協働して行っているということで、今、二つの構造になった。さらに今やっているNPOだけではなく、例えば公民館と連携す

るとか、図書館と連携するとか、他の機関とどうやって連携するかといったことが非常に問われていることであるが、単体でなにか独自のものをやるだけではなく、主催事業ではなくて、協働事業としてということなのだが、他の機関とどうやって連携するのかということが③で求められたことになる。Vとして、行政が担うところと民間が担うところの棲み分けをするということで、今回民間というのは小田原市にもたぶんすごく高いお金を払うカルチャー講座というものがたくさんあると思うのだが、キャンパスおだわらならでは、安いからキャンパスおだわらに行けるということも、もしかしたらあるかもしれない。行政主体でやるからこそできるキャンパスおだわらというものがあると、例えば小田原ならではの講座を開催するとか、子ども向けと一緒に遊びながらできる講座を担うとか、ボランティアを何か講座に活用できるとか、民間のカルチャー産業だとできないような講座の設定ということが、たぶんキャンパスおだわらには求められていると思うので、そのあたりをどうやって棲み分けしていくかということが挙げられている。VIが受講後の行動調査や活動のサポートということで、この講座の認定は良いかということが今までされているが、そのあとの事後評価とかその講座を設定されたかた、参加されたかたがどのようなかたかといったことまではなかなかサポートもできていないし、リサーチもできていないという現状があるので、この辺はどうかといったことがある。VIIが、広報として今やっている、キャンパスおだわらの冊子を作られているということや、情報発信のやり方、VIIIが運営のあり方、といった八つの柱を項目として設定したということであった。

次に、テーマの2になる。これは事務局、運営者にどのような人材が求められているかということで項目を挙げた。実際にすでに運営しているということであるので、現場で実際にこの運営にすでに携わっている人、あるいは運営に詳しいかたにワークショップに入っただき、キャンパスおだわらを実施する運営者というのは、どのような企画を実施すべきか、運営者に求められている人材というのはどういうものなのか、どんなスキルを持っているのか、持っていなければならないのかといったことについて、この項目を挙げてくださった。大項目としては6、中項目としては17、小項目としては非常に多くて155というカードを挙げてくださった。それをそれぞれ仕分けしたのだが、簡単に押さえておきたい。Iがそもそもキャンパスおだわらのミッションをしっかりと分かっているのかというものの、IIの課題意識と解決能力というところで、例えば小田原市に求められているような課題はどのようなことかということの共通能力といったこと。IIIはコーディネート力といったこと、IVがマネジメント力、Vが技術・知識といったことで、基本的な知識、地元の知識、子どもの教育に関する知識などが挙げられる。VIがコミュニケーションといったことで、公平で公正、責任、接客といったサー

ビスの要素が非常に大事であると、人権尊重、態度や姿勢、表現力などがカテゴライズされて挙げられたといったことがあった。

テーマ3は、まだない講座をどのように設定していくかということだが、その内容として、学んだことをどう地域に生かすかといった主体的な市民の育成といったことで、答申でも問われている内容にもなってくるといえる。その主体的な市民とはどういうことなのかということ、全部で7項目挙げてくださった。中項目は7、小項目が34と少し少ないが、この人材戦略、どんなことが問われているのかということをお話しあった。Ⅰが情報発信・把握といったことが必要なのではないかと、Ⅱが活動の場づくりを行うこと、Ⅲがファシリテーターの育成を積極的にするというようなこと、Ⅳが地域資源を生かすということで小田原市のまち、地域の宝がたくさんあるといったことで、その地域の宝というのも答申で書かれていたが、このようなことをどうやって生かすかといった戦略、そしてⅤがニーズの把握、Ⅵが地域開発、さらに人と人とのつながりづくりのような戦略が柱として挙げられた。

それで、これらをどう活用するかということだが、1の部分だが、左側の緑の枠を見ていただくと、仕事分析のどのような評価軸を作るのかということと、もう一つは誰に対してこの評価を行うのかという観点で見たいと思う。テーマ1は、これから議論していただきたい内容でもあるのだが、キャンパスおだわらの評価項目としてどれが一番緊急なのか、どれが一番重要なのか、どれが一番難易度が高いのかということ、5段階評価ということにしていただいて、評価対象として行政の担当者、あと例えばキャンパスおだわら運営委員の私たちが、5、4、3、2、1というふうに挙げてもらって、そこで例えば行政がこれを緊急だと思うものと私たち運営委員が思うもの、あと事務局、NPOもあるかもしれないが、この辺を確かめ合い、どれが緊急性が高く、このキャンパスおだわらの仕事をしていかなければならないのかという見える化がここが出る。

二つ目の内容だが、テーマとしてキャンパスおだわらの企画・実施・運営に求められる人材ということだが、今NPOで、一応これに関わってくださっているかたというのが、約60人いらっしゃるということをお聞きした。そのうち、実際に主導して実施されているかたが何人いらっしゃるかは、私は知らないのだが、例えば主導して行くかたや分業して行くかた、あるいはお手伝いとしてそれを実施して下さるかた、色々なかたがいらっしゃると思う。今後は主導して行くかたとか、中核として行くかたとか、そんな人材育成が求められていると思うので、例えばキャンパスおだわらの今の運営者の現状としてこういう方々がいらっしゃるというようなことで、NPOにご協力いただいて、まずそこでその項目を実際に自分ができているかどうかといったことを意識していただくと同時に、評価していただくということが一つあるかと思う。

三つ目のテーマだが、市民といっても人数が多いので、例えばキャンパスおだわらの受講者にこのような項目が必要なかどうかといったことのニーズ調査を、この評価項目で見るといったことも案としてあるのではないかと思う。

(ここから、配布資料にないプロジェクター画面により説明)

ここで簡単に、これをどうやって活用するかという例を少しだけお話して終わりたいと思う。これは、今仮に評価をした、この仮に評価したというのは、プレ調査というのだが、実際どれが重要でどれが緊急性が高くどれが難易度が高くどれを実施しているかどうかといったような、その現状について仮に行政のかたが話し合っただけで担当者がこの評価を付けたといったことがあるので、ちょっと先入観を持たずに見ていただきたい。これを見ると色分けをしている。5、4、3、2、1となっているが、これを付けた時に一番重要度が高いというのが5というようになっている。一番低いのが1ということにさせていただいて、5から1まで付けている。非常に5が多ければ多いほど緊急性も高く、重要度もあり、そして難易度も高いといったことになる。そのように今色分けになっていて、緑の部分というのが低いものなので、今急ぐ必要はないと、そんな設定になっている。

次に、大項目、中項目ごとに平均点を、難易度はちょっと別にして、緊急性と重要度を足し合わせたもので、例えば4と5を足して右側に9点になっている。この部分の平均点を出した。これは10点満点になっている。この平均点を点数順に並べ替えた。

どこが一番大事なのかといったことで並べ替えた結果、第1位になって平均点が一番高かったのは8.8点ということで、例えばまちづくり人材の育成とかまちづくり人材のあり方といったことを考えるのが、緊急性が高く重要度が高いといったことが言える。二つ目が、市民ニーズをきちんと把握しなければならぬというようなことが挙げられる。さらにこのような順番で全部で9の中分類がある。重要度別に仮にこのように分けてみたときに、点数化することによってどれが一番運営委員会として早くやらなければならないことなのかといったことがここで見える化できる。

シート1を実際に実施しているかどうかといったことをここで5段階で仮に評価していただいた。その結果、5というのうはもうすでに実施しているといったものだが、今度は点数の低い2とか3といったことを水色の部分にあてはめた。こういうふうにして水色の部分にいくと、重要度としては今1位と2位が8.8点となっていたと先ほど話したが、実施しているのがまだ3といったことで状況としてはされていない。なおかつ重要度が高いといったことがあるので、この辺で実施されているかどうかということと、緊急で重要度が高いといったものを並べ替えることによって、今後、例えばⅡ期ではここまではやったけれど、Ⅲ期でこれをお願いするという感じで、バト

ンタッチするといったことができるという活用法がある。

テーマ2は、例えばNPOとしては実際どうなのかとか、NPOのメンバーの中でも非常に点数の高いかたと全体的に点数が低いかたがいらっしやると思うが、それは当然で中核で担っているかたと本当は今お手伝いだがもっと中核になっていけそうなかたなどがいらっしやると思う。そういう方々をより増やしていくために、この例えばテーマ2に挙げられているような仕事分類で、こういうような講座を集中してこういったスキルを高めていただくようなプログラムを作って講座を開催するとか、そのようなこともこれからこの活用法としてあるのではないかと思う。以上で私からの説明は終わる。今の説明で質問や意見はあるか。

岩屋委員 テーマ2のところで、これから対象者に対して評価をしていくと思うが、当然ながら今実際にやられている役割とか、そういうことによっても評価の内容に偏りがでてくると思う。そうすると今の内容プラス今この人が何をやっているかということも必要になるかと思う。それはこの中に加味されるのかどうか。

委員長 テーマ2というのは運営者の人材スキルといったところの評価だったのだが、ここには意図的にNPOの中核メンバーに入っていたので、現状のスキルや、そこでこんなことをやっているという項目は挙げていただけたのではないかと思う。

岩屋委員 そのあたりをターゲットにしているという認識でよいか。

委員長 そうである。

岩屋委員 例えば先ほどのミッションとか色々なマネジメント力というのは、例えばNPOのかたの中でも実際の講座の講師のかたと直接接するようなかたもいれば、そうではなくて、キャンパスおだわらの方向性をしっかりと結べてその方へマネジメントしていったり、コーディネートしていったりするような立場のかたもおられるのかなと思うと、ちょっとそこに差があるのかなと思ったのだが、その辺の部分がこの中だけでは果たして出てくるのかなという気がした。これである一つをターゲットにしたところだけの評価ができて、その人が本当にその部分では劣ってはいるが、例えば接客はすごく上手で、人に対しての部分で資質があると、それはそれでキャンパスおだわらの中では役に立てるというか貢献していけるのではないかと思うところがある。これは自分がテーマ2をやっていると思ったのだが。行政のかたともそういう

ような疑問なども話していたので、ちょっと気になったのだが。

委員長 これは今テーマ2について話してくださったのだが、何か意見はあるか。今、岩屋委員が求められる人材の部分で、例えば点数に偏りがあってもそれはとてもいいというのは変だが、そのようなことがあるのではないかというご意見があった。

左京委員 そもそものところだが、テーマ2に関してはこの表を使って評価をし、点数をつけるのは誰がするのか。

委員長 テーマ2についてはその辺を誰にするのかといったことも皆さんのご意見をいただきたいのだが、私の一方的な提案としては、現状として今運営をしてくださっている方々、全員協力してくださるかは分からないのだが、60人ほどの方々にやっていただいて、その上でどういう人材が多いのかとか、実はどういう人材が不足していたのかということの見える化がここで点数を出すことによってできるのではないかと思っている。

左京委員 それぞれ関わっているかたが自己申告というか自分のことを自己評価していくということか。

委員長 そうである。

岩屋委員 自己評価はいいのだが、自己評価した結果を評価する部分が必要ではないか。先ほども申し上げたが、偏りが出たときに本当にその偏りが問題なのか、生かし方によって変わるのかというと、本来であれば当然、企業の中でもそうなのだが、当然従業員は全員まず自分で評価する。1年間どうだったか。それは自分が見た見方であって、ところが上司は当然ながらそこに違う見方が出てくる。それを話し合うことによってより良い方へとか、もしかしたら従業員が見ている自分の見方が違っていたが、もしかしたら上から見たらその方向よりも違う方向の方が生かせるのではないか、みたいなどころが必要かなと思うのだが。

委員長 修正すると、この評価を一つはNPOのこれに関わっているかたに評価していただくのと、もう一つは行政の担当者が事務局と一緒にやりながら実際にどうだったかという行政側の評価をしていただいて、その辺の齟齬をしっかりと最後に見る。自分たちができている、だが見方が行政の方が厳しかったり、そうではなかったりという部分の両方が出てくると思うので、その差を見ることもできるといったことが、この縦横はまさに企業で活用されている

ものと同じなので、自己評価と上司の評価の差がどれだけあるかということ
を確かめて、低かったものに対してはどれだけ評価するかというものに活用
する方法である。

岩屋委員 その流れで構わないということで、ほぼ企業と同じということよいか。

委員長 いかがか。抵抗はあるか。奥村理事長はどうか。

C事務局

(奥村理事長) 私もテーマ2に参加した。課題の明確化がないままに議論に入ったと疑問に
思っていた。ここに挙がっている話、内容については総花的になっている。
岩屋委員が言われたように、私どもも企業で仕事をしていて、例えば情報発
信をするというときに編集作業をするが、業務内容によってその人たちに求
められるスキルというのは違って来る。それを同じようにこういう基準の上
に展開をするととなると非常に偏りがでる。私はこのまとまった資料を拝見し
て、非常に違和感を覚えたというのが率直な意見である。

C事務局

(和田副理事長) 私は前回欠席で、これには参加していないのだが、こちらを見させていただ
くと、奥村と同じような感覚を持った。特に今岩屋委員が言われたように、
私たちが企業の中でさんざんやってきた。その時にはかなり明確な目標があ
って、それぞれ若干のスキルの違いがあっても、同じベクトルの方向に動い
てやっていたわけだから、かなりシビアな評価とかシビアな判定ができるの
だが、残念ながら、やはりNPOとはいえ、しょせんボランティアだよとい
う部分もあったりすると、かなり個人個人の目標も違って来るし、意識も違
って来る。非常にシビアに評価をする人もいれば、あるいは私はこれで十分
満足しているということもある。低いけれども5だという人もいると。先ほ
ども説明があったが、そういうところをしっかりとしないと、中途半端の、本
当のデータが出ない心配があり、その辺をどういうように考えているのかお
聞きしたい。

委員長 私が全部答えていいのかわからないのだが、テーマ2については、まずこの
項目を見ると、おっしゃるように総花的になっているので、全部こうだとい
うのは、本当にスーパーマンになってしまう。155とかかなりの項目数が挙
げられたので、この項目でよいのかどうかというチェックを、まず中核のか
たにチェックしていただければと思う。状況によってこれは削除した方がい
いのではないかとか、これはもうちょっとこういう言葉があったほうがよい
のではないかとかが、もしかしたらこれを見ながら出てくると思うの

で、ワークショップに関わってくださったかたがご苦労されてここまで並べ替えをして、さらにまとめたということで、事務局と運営委員のかたが中核となって現状のところはこの並べ替えをしてくださったということがある。これを作業としては2回やったので、この項目というのはとても大事になるので、それを逆に今度中核メンバーのNPOのかたに見ていただいて、この項目はいらないだろうとか、いるだろうとか、もう少し全体像として企画・実施・運営をされる方々に求められているということに内容を厳選していただいて、チェックをしていただくという作業がさらにあるのではないかと思います。奥村さんがお話しされた、人によって偏りがあるじゃないかというのは、それは当然であると思う。例えば、私はボランティアが専門だが、イベントをする時に例えばイベントボランティアといっても、そのイベントの企画・運営を中心に担う、どんどん車輪のように回していく人と、準備だけ手伝うというようなメンバーと、当日だけ参加するボランティアということによっても、まったく評価というのは異なるものになるので、この辺のこれを担っている方々というふうにして、分析の時に分けるということと変だが、種類分けをしっかりと、その分析の仕方に注意をしていかなければならないということがあるが、しっかりと内容もわかっていないので、ご相談させていただきたいという評価項目である。

C事務局

(奥村理事長) 一つ、ここにスキル、技術論の話が出ているが、私どもはNPO法人をやっているが、やはりボランティアとしての参加ということで、心の熱意とかそういうことが、ここでは大きく欠落しているのではないかと思います。むしろ、そういうところでどう評価されて、そういうものが大切なポイントだという認識を持っている。たぶん同じお考えであろうかと思われるが。

委員長

NPOはパッションであると。ミッションだけでなく、パッションといったことで強いハートをもってこれを活動するということが当然あって、そのパッションの部分がここに入っていないというところがあるかもしれないので、それをどう加えるかということももしかしたら必要であるかもしれないが、このパッションの部分の評価はすごく難しい。その日の気分もあるし、その時の仕事内容もあるしといったことで、ちょっとこのあたりはぜひご相談させていただきたい事項である。今テーマ2について先に進めているが、他にいかがか。

C事務局

(和田副理事長) 例えば当事者が評価する場合、その評価の仕方が難しいのではないかと。企業であればその仕事のミッションもはっきりしているので、評価するときに必

ずその仕事のスキルの向きが決まってくる。それによって評価するのだが、そういうことをサイドから見たときに、適正な評価ができるのかということに非常に懸念がある。

委員長 企業で、このクドバスが多く使われている。例えば旭硝子とかトヨタとか色々なところで活用されているのだが、厳密に言うとAさんである私が、自分で自己評価するというのと、企業でいうと私の上司が私を評価するというこの二つの整合性を一つ一つ付けていかなければならないのが本来の姿ではあるのだが、そこまでされたくないという抵抗もきっとあると思う。まず、現状を自己評価していただいて、どのような層がすごく多いのか、どのような層が不足しているのかということを確認するための評価になるのではないかと思います。それは自己評価で、自己評価と他者評価というのは、実はこれは調査結果で明らかになっていることだが、意外と違わない。自己評価が低いとやはりできていなかったりという部分があるから、その整合性の部分は厳密に言うともちろんあるのだが、そこまではやらないというのはいがかかなと思う。他にいかがか。今、調査のやり方や分析の仕方といったことで、テーマ2を中心に話があった。テーマ2をまとめてくださったかたのご意見は。

有賀委員 岩屋委員と一緒にまとめさせていただいた。他のテーマと比べてすごく小分類が多かったことに驚いたのだが、ワークショップの時も皆さん意欲的でたくさん意見が出された。これでも同じような意見をまとめて簡略化したつもりなのだが、いざまとめてみたものを見ると、かなり幅広く仕上がってしまったので、もし簡略化できるのであれば検討していただきたいと思う。こういう結果でよろしかったか。他のテーマに比べて。

委員長 やっている内容が幅広かったということもあるし、入ってくださったメンバーというのが実は選ばれた方々がそのメンバーに入っている。例えば有賀委員であればスクールボランティアでコーディネートをされているかたなので、スキルとして色々なコーディネートの作業をされているのではないかと、運営に近い部分もスキルがわかるのではないかとこの部分で入っていただいていると思うので、共通点が結構あるのではないかとこの部分で入っていただいていると思うので、あるいはこれとこれは一致しているのではないかとこの作業もすでにやったと思うので、あと3回目くらいで終わりにしないとたぶんちょっと辛い、やっている方も辛くなって、これ以上負担させないでという状況になってくると思うので、一応ここまででいいというところで、あと1か月以内くらいで決定、今度はNPOと話し合っという感じになるかもしれないが、決定していただいて、多少多くても協力していただけるかたを中心にやるという

方向でいかがかなと思う。どこかで終わりを作らなければならないので。

有賀委員 どちらかという和学校と関わる人が多いので、そういったところからの視点で書かせていただいた。学校一つとっても幅広いので、まとめていったら、すごく莫大な量になってしまった。

委員長 他にいかがか。テーマ1についてはいかがか。関わってくださったかたはこれを見て。他のかたでも、テーマ1、これはキャンパスおだわらのどんな方向性をもってやるのかといったことのあり方・方向性であるのだが、よく見ると仕事分類みたいで、どんな仕事をやるべきかといった感じの内容になっているかと思う。挙げてくださった内容はもうすでに実施しているものと、そうではなくて、例えば3の部分のまちづくりの人材育成というのは、積極的に行っている状況ではない、けれども緊急性や重要度というのはプレ調査したときには非常に高かったということが見えてきた。関わってくださったかた、左京委員どうか。

左京委員 この表だけを見た時には、ここから実務としてどういうふうに活用していくのかというところの想像が難しかったのだが、さきほどご説明いただいて、ここから具体的に何を行っていくのかというところが、ああいうふうに絞られていくのだということが分かったので、まずはそこまでいってみて、では具体的にそれに向けてどう施策を講じていくのかというところを検討してみたいと思う。今のところは特に何もない。

委員長 永田委員はどうか。

永田委員 逆に並び替えをしたので、齊藤委員長から見られて、どのように感じられるか。

委員長 正直言うと、テーマ1のあり方・方向性のもう少しビジョンのようなことが出てくるのかと思ったのだが、仕事分類のような形になった。あり方・方向性というこのテーマ設定と、実際に出てきた項目がだいぶ、大項目、中分類の内容自体が違ったが、これはこれで評価としてやりやすいかなと思ったので、これを例えば私たち運営委員メンバーと行政とかNPOの中核の何人かにして、緊急性とか重要度ということ例えば三者でそれぞれ平均化して、高いものはどれなのかというような順位づけや優先順位別ということができないのではないかと思うので、活用の方法はあるかと思う。

永田委員 先ほど出されていた評価というのは、我々が見ることになるのか。

委員長 あれはプレ調査で仮に調査していただいたのだが、行政の担当者が3人で話し合っただけでやってくださった。でも、3人で話し合うのはやめていただいて、一人ひとり、例えば課長クラスのかた、係長とか、これをやったばかりのかたとか、全然立場によって違う。それぞれで今回やってほしいというふうに、あとでお願いした。

永田委員 それはあとで出てきたりするのかな。

委員長 この調査を今プレ調査してみたので、今度は本調査としてやってもらうことは可能だと思う。

永田委員 それを委員全員でできたりもするのかな。

委員長 委員も、先ほど金澤委員がこの運営委員会が始まる前に、ご自分で書いてみたということを見せてくださった。大変だったと言いながら書いてくださったので、皆さんも大変な思いをしてちょっと調査していただけたら、それを打ち込めばできる。パソコンができるかたは直接パソコンに打ち込んでいただいた方が、打ち込む時間が減るので楽である。

人材バンク
実行委員会

(太田副委員長) 少しよろしいか。今、これからやる方策、方針その他の話でいいのだが、では、実際にそれをやる人、いわば組織とか、その話し合いをやっていただけるか。そこが一番大切だと思う。NPO、NPOと言われているが、小田原市は実際にNPOさんだけではない。きらめき☆おだわら塾を運営する会の企画なども多い。そのあたりのあり方とか、実はパワーが出る色々な施策に対して、一致団結する必要があるが、それが非常に危うい状態で、その辺りのことをぜひ話題にしていきたい。

委員長 たぶん、この項目をどう生かすかと同時に、誰がどう担うのかと、たぶん役割分担ということも出てくると思う。これは行政がきちんと担ってもらいたいものというものも出てくると思うので、この辺りの話し合いも大きい。

人材バンク
(太田副委員長)

意外とそれが一番先だと思う。

委員長 そのとおりだと思う。やりっぱなしで調査がこうだったというだけではなく、それをどうやって具体化していくかというところまで落とし込んでほしいと

いうご意見があった。他にいかがか。

岩屋委員 もう一度テーマ2に戻ると、これをやっているときに、今のような話もした。要するに、私がこれをする時に、今働いている人たちの現状を正直見たことがない、そういう話をその場でも話した。現状を知らないのに、理想論だけのような感じで挙げてしまうのも、正直ここに挙げた大項目というのは、極端な話でいうと、企業の評価でもよく出てくる特性のような項目で、その人の持っている特性がこの大項目に挙がっているだけで、というような形に最後はなってしまうと。ところが先ほどの企業でいうと、こういう特性の部分の評価と、その人が年間の目標と具体的な目標を立てて、それを実際にどれだけできたかということでの評価、私の職場の場合もこの二通りの評価をする。特性がどうなのか、実際具体的にこの人の成果はどうなのか、というような時に私も全然NPOの活動を見たことがない。今もおそらく運営委員の大半のかたが、実際NPOがどんなことをされているのか、行政のかたもそうだが、どのようなことを日々されているのかということも知らない。そうすると、そういうことを知らずに本当にその現状分析というのか、その部分が本当にできているのかなというのが、これをやっていて思ったところだ。おそらくNPOの他にも色々な団体がある。その人たちがどのような活動をしているのか、それぞれの関係がどうなっているのかということも全然知らないとする、これを生かしていくためにも、そういうことも必要なのではないかと感じたところはある。

委員長 テーマ2については、人の分析になるので、項目を修正した後は、とりあえずやっていただいて、その中でこういう特性の人たちがいる、ここの部分が人としては不足しているからもう少しこういう人たちをより多く育てるといいう方向性の成果評価の見える化が、調査結果を分析すれば出てくるのではないかと、テーマ2については見込んでいます。

岩屋委員 その仮の結果として、出てきた結果は次年度にそれをそういう形に持っていくという流れなのかどうか。

委員長 次年度になるとⅢ期目になるかと思う。

岩屋委員 期限もそうだが、お金の絡むものは、要するに今期中には大半ができない。お金が絡まなければ今期中に取り掛かれる。費用が必要になればしっかりと計画を立てて、論理立てして、根拠を作って、承認を得て初めてそれが実際に実行できる。もし、そういう形になるものであれば次年度しかできない。ターゲットというか、次年度を見据えてあり方なりテーマなり、それに必要

な人材なりというのは、こういうものがあるということにして、それに必要な費用はこれくらいであるということをして今期中に作って、それを予算立てして、来年度実行するというような流れに位置づけるのか、その辺がどうなのかというのは、私はよくわからない。

委員長 私と話して良いかどうか分からないので、事務局の方で。

大木副課長 まず、今岩屋委員が言われたとおりであるが、テーマ1、2、3の中で、大きく予算に絡んでくるところというのは、テーマ2の部分。NPOには1、200万円の委託、人材バンク実行委員会には200万円の負担金を支出している。このテーマ2を突き詰めていったときに、仮にこれが組織論に到達したときには、やはりその辺が出てくる。今現在、NPOや人材バンクと色々打ち合わせをしている中で、我々の中で緊々の課題があって、来年度平成27年度から影響が出てくるところも若干ある。なので、そういう意味でいくと、このテーマの中で、テーマ2のところ、皆さん任期が来年の5月31日までであるが、その中でやっていただく中で、最初の取り組みにさせていただくと、来年度の予算、来年度となると今年の秋からの予算編成になるが、その前にある程度の方向性が見えていると、我々としてはありがたい。できる限りこのキャンパスおだわらを早く良い方向へ持っていきたいということがあるので、時間的なものでいくと、来年度の予算に反映するのであれば、夏から秋くらいにかけて、方向性が見えるといい。

委員長 他にいかがか。次の運営委員会が夏くらいにあると思うが、年間それほどない。今日とても大事なものは、この内容でご承認いただけるかどうかということと、修正するとしたらどういうところを具体的に修正していくのか。そしてそれをどうやって活用して、いつまでに活用し、Ⅱ期でどこまで見出すかということが今日決めたいところである。どのように活用するのかは仮に提案させていただいたので、もし仮に調査をさせていただいて、夏までにこの方向の結果が出たというところまで、すごく急ぎ足だが、全部できるかどうかは別として、出してみると秋の予算に間に合う、次年度に間に合うのではないかと思う。私が思っているわけではないが、そのような話があったというところである。

岩屋委員 とりあえずやってみるのは良いと思う。全部評価するとか、数値を入れていくとおのずと見えてくるものが出てくるし、それをやらないと不都合なところや不具合なところも見えてこないのではないかと思うので、まずはやってみるというのが大事なのではないかと思う。

- 委員長 ではテーマ3だが、そちらはいかがか。
- 岩屋委員 こちらの自己分析の対象はどちらになるか。
- 委員長 対象は、今仮で考えているのはキャンパスおだわらに参加してくださっている受講生の皆さんにご協力いただけないかと思う。ニーズ調査といったことがテーマ1で重要なところに市民ニーズを把握するといったことが挙げられていたので、市民ニーズの把握の項目として活用できないかと。「こんなことを大事だと思っていますか」とか語尾をちょっと変更しながら使うと、ここで市民のニーズが見えてくるのではないかと思っている。
- 岩屋委員 これは今日これを承認すれば、これに関してはすぐ実際受講生の方にアンケートのような形式でやっていくということになるか。
- 委員長 その前に内容の吟味もあるかと思う。受講生がどう思うかとかどう感じるかというのものもあるし、実は足りないものもあるかなと思う。例えばテーマ2というのは、項目としては150ぐらい挙げられたが、テーマ3は良いのか悪いのか、項目としてはそれほど多くは挙げられていないので、その辺が受講生にとって負担がないかどうかなど、そのニーズが見えてくるかどうかという部分が、必要になってくると思う。
- 岩屋委員 ということは、これに関して、追加や修正をかけて次の運営委員会の時に初めて完成品になるというイメージでよいか。
- 委員長 いかがか。テーマ3を担当してくださったかた。
- 石井委員 内容を見ていると、テーマ1とかテーマ2とも重なっている部分がすごくあった。こういうことをやったことがないので、良く分からないのだが。
- 委員長 市民の視点で最初にお話があったので、そういう視点ではいかがか。
- 石井委員 結局、私が実際に住んでいて色々なことに参加した時に、これは足りないとか、この辺は良いだろうということの意見としては色々出ささせていただいたが、それがこのテーマに合っているのかというのは私もよくわからない。
- 委員長 この小項目に全部「～か」と付ければ、質問項目になる。例えば「発信しているか」というところで市民が「発信している」と思えば、5点と付くし、そうでないと思えば1点とか2点とか。これは3点評価にしてもよいのだが、

良い子、悪い子、普通の子で、それに悪い子の中にちょっと悪いか、その辺が付いて5段階にしているだけである。ここに「～か」とつければ調査ができるように一応なっているということだが。金澤委員いかがか。

金澤委員 あの時出た色々な項目が結構万遍なくきれいに整理されていたなという感じがする。一方で、市民に聞いてもわからないことも質問項目にある。例えば「Ⅲファシリテーターを育成する」の中で、既存のネットワークをつなげるコーディネーターがいますかと聞かれたときに、参加者には全然見えない部分、でも企画をする側は絶対意識したい項目というのはあるので、市民に聞いて生の意見が聞ける項目と、そうではなくて企画者側が企画するときに大事にしたい部分と、それを分けてやっぱり市民と企画者側にもこれを投げかける必要というのはあるような気がする。そして、良い子、悪い子、普通の子の悪い子という評価が出た時に、では何が欠けているのかというようなところがもう少し聞きやすいような、拾えるような仕掛けがあると、市民の満足度や、ニーズが把握しやすいのではないか。ただ、これは始めとしてはとても良くて、これをもう少し分類したり、調査対象者をこちらに絞るとか、こういう人も入れるなどやっていくことで、かなりここから分かることがあるのではないかと思った。

委員長 具体的な作業の修正ということが今お話にあったが、その修正する際に、私たちが市民であるわけだから、聞かれたときにそれが分かるかどうかという視点で、もう一度この分類を見直してみて、もしかしたら分からないという項目を別に作るか、そのようなこともあるのかなと思う。瀬戸副委員長いかがか。

副委員長 大変しっかりとまとめていただいて、分かりやすくなったと思う。

岩屋委員 テーマ3のところ、主体的な市民を育成するための人材戦略というのがテーマとしてあるが、実際にここでいう育成した市民というのは、今後どのようにこのキャンパスおだわらに関わってくることになるのか。

委員長 主体的な市民はどのような人であり、どう関わってくるのか、具体的に活用するのかということではいいか。他にないか。なにかその辺の主体的な市民とか、具体的な活動イメージのところだが。

岩屋委員 それによって、挙げていただいた中でも、答えていただくかたが変わってくるのではないか。先ほど金澤委員が言われたように、主体的にと言いつつ、あくまで通常の講習を受けた後に、何らかの活動をしていただくような人た

ちの育成ということなのか、そうではなくてそういう人たちから例えばテーマ2の方に持っていくような運営側になっていくような人を育てていくというような育成なのかというところの部分が少しあいまいかなという気がする。

委員長 立花委員いかがか。何か市民としてみて。

立花委員 見せていただいて、やはり先ほどのファシリテーターを育成するとか、大項目の8の部分が、どういうふうに答えればよいのかというのが、少しわかりにくいかなと思う。例えば今お話を伺っていると、これは市民のかたに調査をする、受講生のニーズ調査ということだが、その受講生をチョイスした方が良いのかとか、行政の方で同じ調査をかけるのであれば、行政用のものをここからピックアップして、下に付ける形でもう一回精査した方が良いかなと思う。

委員長 受講生全部ではなくて、受講生の講座の内容によってということがあるのかもしれないが、それで活用する方法があるのか、あるいはこの小分類か中分類か、もう少し内容を限定して、精査しながら調査項目を設定し直すのか、というような意見があった。有賀委員いかがか。

有賀委員 講座の内容によっては、受講者の中には子どももいるわけだと思う。世代を選ぶというか、男女の違いもあるし、もちろん講座内容の違いもあるし、少し漠然としているので、世代や男女、講座内容によって分けたらどうか。

委員長 他にいかがか。子ども向けのものはピックアップしないと難しいと思う。どちらかというとな大人向けになっている。

岩屋委員 テーマ1の「水準」欄は重要度の点数をつける際に紛らわしくなるので、ない方が良いのでは。

委員長 確かにそのとおりである。調査時には「水準」欄はなくす形とする。

金澤委員 調査票の最後に感想を書く欄もあると良い。

委員長 それでは、意見欄を設けて行うようにする。

委員長 これは私の意見だが、答申が出されていて、その答申に社会教育・生涯学習のあり方というこれからのことがあり、ここに地域資源の活用とか、まちづくりについてとか、みんなで作るとか、そういうことが書かれていて、今回

のテーマ1のところでもまちづくりの人材育成ということが書かれていたの
で、このあたりのまちづくりをしていく人たちの層を項目設定していくとか、
何を担っていく人かという具体的なイメージづくりが、テーマ3はまだ十分
なされていないので、そのあたりでもう少し精査する必要があるかなと思っ
た。では、意見もたくさん出されたので、まず一つ目、皆さんこの方向で進
めさせていただくということでご承認いただけるか。

(異議なし)

委員長 では、二つ目はこれを修正するという作業で、これまでも十分にご協力をい
ただいたのだが、さらにお声がかかったかたは、みんなで作り上げている段
階なので、さらにご協力いただけるとありがたい。今、意見が出されたので、
いくつかはこれで終わりというのを作らないと、いつまでもいつまでも話さ
なければならない辛さもあると思うので、テーマ1とテーマ2は大きな軌道
修正をすることも、もう3回か4回やっているの、大幅な変更はなしで進
めさせていただいてもよろしいか。

(異議なし)

委員長 テーマ3はニーズ調査をすることもあるので、もう少し意見が出た方がよい
のではないかと。これは私の解釈だが、もう少しこの話が必要かなと思っ
ているのがテーマ3である。では、この方向で進めさせていただく。ご意見感
謝する。

事務局 次回の運営委員会は7月2日午後開催予定である。時間は未定なので決まり
次第、案内を送る。

委員長 次回の運営委員会には、皆さんから出していただいた意見を修正していただ
いた上で、すでに調査をして、その結果が出てくるということになる。事務
局にも負担がかかる作業だと思うが、運営委員の方々も修正する作業で、ぜ
ひみんなで作り上げていく過程にあるので、ご協力いただきたいと私の方か
らお願いをしておきたい。テーマ1の方は、アンケートを運営委員のかた
もやるということで、その回収作業はどうするか。

事務局 今メールでやりとりさせていただいているかたには、差支えなければメール
で、添付していただくという形でお願いしたい。メールが使えないかたにつ
いては、郵送で送らせていただいて、返信用封筒で送っていただければと思
う。

委員長 この内容で少し修正があるかもしれないので、できた段階で送っていただいて、メールで5とか4とかそのままファイルに入力していただきたい。そのまま添付して送ると打ち込み作業のロスがなくなるのでご協力いただければと思う。パソコンを普段使われないかたは、郵送で送ってくださるそうなので、返信していただければと思う。期日についてはまたご連絡があると思う。

4. その他

- ・ 次回の運営委員会は平成26年7月2日(水)午後開催予定。後日案内を発送。

以上